希望の丘

気仙沼市立九条小学校
校長室だより
令和６年２月７日
NO.10
校長　白　倉　彩枝子

ほんとうによい学校にするには…

　立春を過ぎ，暦の上では春だというのに，まだまだ寒さの厳しい毎日です。
　職員室前の花壇には，冷たい風に耐えながら山茶花（サザンカ）の花が，凛々と咲いています。その様子は，山茶花の花言葉である「ひたむきさ」「困難に打ち勝つ」と重なって見えます。私たちも，背筋をぴんと伸ばして，春の訪れを楽しみに待ちましょう。
　さて，先週，九条小学校「独立６０周年を祝う会」を無事開催することができました。地域から御来賓をお招きし，全校児童と先生方が一堂に会して，ささやかながらも心温まる会になりました。御来賓の皆様からは，「独立５０周年の式典では，児童数が多かったこともあって，５・６年生だけの参加だったけれど，全校児童でお祝いするというのは，とてもにぎやかで活気があっていいですね。１・２年生の子供たちも，難しいお話を頑張って聞いていましたね。」と，お誉めの言葉もいただきました。記念すべき節目の年を，全校児童でお祝いできたことは，何よりもうれしいことでした。

　私は，「独立６０周年を祝う会」を実施するにあたって，九条小学校の歴史や伝統，九条小学校に対する人々の思いや願いを知るために，独立２０周年記念誌「銀の雲」や独立５０周年記念誌「緑の風」を改めて読みました。特に「緑の風」では，在校生の作文も掲載されており，当時の小学生の様子を想像しながら楽しく読みました。その中に，学校運営協議会，副会長の吐生貴之さん（当時６年生）の作文も掲載されていました。その一部を紹介しますと…
　…ぼくが一番望む九条小は，仲の良い，平和な学校です。
　しば桜やサルビアの咲く美しい学校で，ぼく達は毎日楽しい生活を送っています。市内体育祭や水泳大会では，先ぱい達が良いせいせきを残してくれました。ぼく達も先ぱい達に負けないように，がんばっていますが，もし仕事をなまけたり，少しのことでもすぐおこって争ったりするようでは，よい九条小とはいえません。
　ほんとうによい学校にするには，一人一人が優しい心を持ち，みんなと力を合わせてがんばっていくことだと思います。…
　吐生少年は，「ほんとうによい学校にするには，一人一人が優しい心を持ち，みんなが力を合わせてがんばっていくこと」だと語っています。当時は，児童数も８００人を超え，「晴れた日は，みんなが外で遊ぶので，遊ぶ場所がなかった」そうです。そのような環境だからこそ，「優しい心」や「力を合わせること」の大切さを感じていたのでしょう。今の子供たちは，「ほんとうによい学校にするには」何が大切だと，考えるのでしょうか。子供たちの思いや願いを聞いてみたいところです。

　明日は，令和５年度最後の学習参観です。我が子だけでなく，学級全体の学びに向かう姿を見ていただき，励ましの言葉を掛けてあげてほしいと思います．保護者の皆さんの言葉は子供たちの心に届き，進級・進学に向けてのエールになるはずです。
　保護者の皆さん，防寒対策をしっかりして，ぜひ御来校ください。子供たち共々，楽しみにお待ちしています。